

北京市教育視察に参加して (4)

視察校の2つ目として、北京市南東部に位置する通州区の北京潞河^{ろか}中学を取り上げます。通州区は、中国の南北を結ぶ京杭大^{けいこう}運河*の北端にあり、歴史的に由緒ある地区です。近年では、北京市の副都心として都市機能の集積が見られます。



北京潞河中学の創立は 1867 年まで遡り、アメリカ合衆国のキリスト教会衆派 Congregational Church から派遣された宣教師の江 戴徳が男子の寄宿校が始まりです。現在では 17 万 m² という広大な敷地を持ち、緑豊かな草地、運河から取り入れた湖が広がり、灰色と赤色をベースに統一された歴史的建造物が建ち並び、まるで大学のキャンパスを思わせる学校です。



北京潞河中学(高校)は、潞河中学のほか附属中学、三河校、渠家園の4校から構成され、小学校や中学校(初級)を含む総合学校です。高校の入口には、右の写真のように信条(目的)、校訓、校風が掲げられています。信条は「一切為了学生發展(すべては学生の成長のために)」、校訓は「一切為了祖国(すべては祖国のために)」とあり、校風として「愛国、楽群、自律、修身」を掲げています。校風にある「楽群」とは、『礼記』の「大学」にある「敬業楽群」に由来しており、「日々の学習を敬い、教師や仲間と共に楽しみを分かち合う」ことを意味しています。



著名な卒業生としては、孔子の子孫として中華民国時代に政財界で活躍した孔 祥熙(1880-1967)**、小説家として知られる劉紹棠(1936-1997)、私の専門とする地理学においても中国歴史地理学の祖を築いた侯 仁志(1911-2013)などを輩出しています。



ここでは、最初に芸術棟に案内され、高校生と中学生による民族楽器の演奏が披露されました。演目は『澄』『競馬』『三里』『挑山』で、北方の草原を走る馬をイメージした曲が印象的でした。



続いて校舎見学の後、事務長***や校長のほか先生方に加え、生徒代表も交じって約1時間、学校紹介と懇談会が行われました。特に実験や創造力育成に注視しているとの説明でした。ここでも生徒の自発的創造力を伸ばすため、火曜日の午後には70ものサークル活動が展開されており、それにより大学入試に向けて学力伸張が図られているとのことでした。また、



日本の富山国際大学附属高等学校をはじめ、海外との国際交流も盛んで「明るい未来に向けて理念を磨いて行きたい」という言葉が印象的でした。

*北京から杭州までを結ぶ総延長 2500km に及ぶ大運河。途中、黄河と長江を横断している。

**パートナーは、孫文の支援者を父に持つ宗家三姉妹の長女の宋 靄齡(1889-1973)。

***中国では、学校運営のトップは政府との繋がりが重視され、事務長が担っている。

(つづく)
校長 石飛 一吉